

補助金・交付金チェックシート(No.1)

補助金名 (交付金名)	函館市子ども会育成連絡協議会運営事業補助金	開始 年 度	昭和39年度
団 体 名	函館市子ども会育成連絡協議会	団体等 の状況	☐ 課税事業者 ☒ 免税事業者
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	函館市補助金交付規則		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	函館市内の子ども育成者組織の連合体として、子ども会活動の育成に関する事業を行う。
目 的	(目 的) 青少年の健全育成のため
・ 効 果	(効 果) 子どもの社会生活の順応、特に「自立」「協調」「奉仕」の精神を涵養し、情緒豊かな人格形成を目的とした子ども会活動を推進するとともに、会員・育成者の資質向上が図られる。

○補助事業の収支状況 ※上段:補助事業等に要する経費 [下段]:補助対象経費 (単位:千円)

	年 度	助 成 金		事業収入	会 費	繰越金	雑収入	計
		市	その他					
収 入	R元	1,041 [1,041]	0 []	50 [28]	88 [78]	0 []	0 []	1,179 [1,147]
	R2	889 [889]	0 []	39 []	43 [3]	0 []	1 []	972 [892]
	R3	485 [485]	0 []	9 []	34 [24]	0 []	1 [1]	529 [510]
	R4	387 [387]	0 []	0 []	36 [15]	0 []	0 []	423 [402]
	R5	967 [967]	0 []	55 [13]	45 [44]	0 []	0 []	1,067 [1,024]
支 出	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体 負担金等			計
	R元	0 []	196 [191]	910 [883]	73 [73]			1,179 [1,147]
	R2	0 []	152 [151]	745 [666]	75 [75]			972 [892]
	R3	0 []	98 [98]	373 [354]	58 [58]			529 [510]
	R4	0 []	87 [87]	271 [250]	65 [65]			423 [402]
	R5	0 []	53 [53]	952 [909]	62 [62]			1,067 [1,024]

補助金・交付金チェックシート(No.2)

補助金名 (交付金名)	函館市子ども会育成連絡協議会運営事業補助金
----------------	-----------------------

○基本的視点の再チェック

基 本 的 視 点		適	不適	説 明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献する事業 ②市民ニーズが高い事業	☒ ☒ ☒	☐ ☐ ☐	函館市内の子ども会育成組織の連合体として、子ども会活動の育成に関する事業を行い、子どもの社会生活に必要な徳性の涵養および健全育成に寄与している。 さらには、子ども会不加入の子どもが参加可能な青函子ども会交流も実施しており、広く子ども達の健全育成に寄与している。
2	必要性(補助しなければならない事業であるか)	☒	☐	教育問題の深刻化が進む社会情勢にあって、地域の果たす役割はますます重要性を帯びており、当該団体の地域活動は大いにその役割を果たしている。
3	自主性(自主自立に向け努力しているか)	☒	☐	会費や事業への参加費等の増額に努めてきたところであるが、今後において大幅な増加の見込みはなく、経営基盤は極めて弱中において、青少年にとって最も身近な地域活動を行うには補助金の継続が不可欠である。
4	有効性(他の手法ではなく補助することが、施策目的実現に最適か)	☒	☐	地域における子ども達の育成を期待するものであり、補助の形態が望ましい。

○財政的視点のチェック

財 政 的 視 点		不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	☐	
2	補助金等の使途は適切である	☐	
3	積算基準は定められている	☒	子ども会関係団体に対して補助金を支出している他都市の会費収入の状況を調査し、積算基準を定めた要綱の作成に向けて準備を進めていたが、当該事業の目的を達成するための手段について、改めて幅広く検討する。
4	補助割合は、補助対象経費の1/2以内である	☒	当該団体の事業は、ほぼ当市からの補助金により賄われている状況にあるが1/2を団体が負担することは、性質上困難である。
5	前年度繰越金は生じていないか	☐	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	☐	
7	経常経費の節減に努めているか	☐	

補助金・交付金チェックシート(No.3)

補助金名 (交付金名)	函館市子ども会育成連絡協議会運営事業補助金
----------------	-----------------------

○補助効果の検証

(効果測定方法、具体的な数値等) 年間の事業活動の実施により、地域におけるまちづくりの活性化や青少年の健全育成が図られている。 また、育成者、指導者、ジュニアリーダー、シニアリーダーが実践や研修を重ねることで、市子連、各地区子連、単位子ども会の活動が相乗的に充実している。
(達成状況) ・青函子ども会交流（子ども16名 大人9名 ※令和5年度実績） ・地区スポーツ交流大会（子ども17名 大人16名 ※令和5年度実績） ・各地区による地域活動（通年） ・ジュニアリーダー育成研修（17名 ※令和元～5年度中止により平成30年度実績） ・指導者研修会（2名 ※令和3～5年度中止により令和2年度実績）



(評価) 十分効果をあげている ☐ 一定の効果をあげている ☒ 効果が疑問である ☐ その他 ☐	(理由) 子どもの社会生活の順応「自立」「協調」「奉仕」の精神が涵養し、会員・育成者の資質向上が見られる。
--	---

○今後の方向性

☐ 現行のまま補助を継続 ☐ 見直したうえで補助を継続 ☒ 廃止 ☐ その他	(見直しの内容) (見直しの時期)
(廃止の理由) 函館市子ども会育成連絡協議会の解散により廃止 (廃止の時期) 令和5年度	(その他の内容)

○終期の設定

終期設定	☒ 終期到来により廃止 ☐ 終期到来時に再検討	次回チェック年度(予定)
令和5年度		